

慮育活動の系統づくり



右のQRコードから
左のページの表示を
お願いします。

R7. 3. 13
AELL



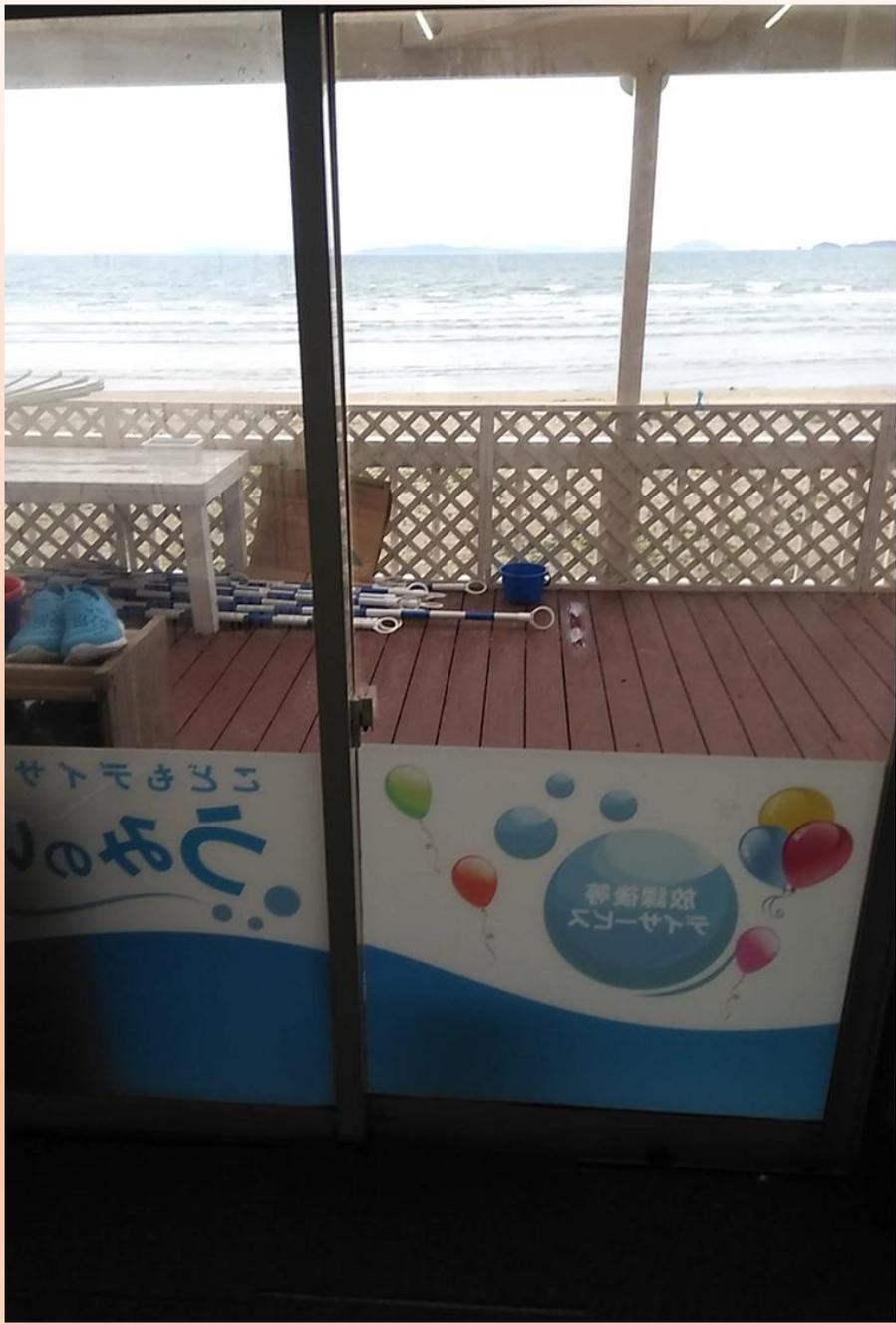
サンクスシェア
代表社員 田中 聡



特色ある療育（カホンづくり）



特色ある療育（磯たんけん）



特色ある療育（認知トレーニングサーキット）



ポイント ①

療育活動内容を企画する



活動を企画するポイント

- ① **目的** : どんな成長（思考・感情・行動）を目指すか？
- ② **内容** :
 - ・ 子どもの興味関心をそそるか？
 - ・ 実現可能か？
 - ・ 実行時のリスク管理が想定範囲内か？
- ③ **方法** :
 - ・ 実施可能な方法か？（必要な支援者人数の確保）
 - ・ 保護者への説明が十分できる方法か？
 - ・ 実施の評価を事前に準備できる方法か？
- ④ **評価** :
 - ・ できたか、できなかったか、の判定が可能か？
（行事の目的を達成できたか評価できるか？）

目的・内容・方法

活動の目的(ねらい)はなに？



第2章 放課後等デイサービスの全体像

1. 定義

- 放課後等デイサービスとは、学校教育法第1条に規定する学校(幼稚園及び大学を除く。)又は専修学校等(同法第124条に規定する専修学校及び同法第134条第1項に規定する各種学校をいう。以下同じ。)に就学している障害児(専修学校等に就学している障害児にあっては、その福祉の増進を図るため、授業の終了後又は休業日における支援の必要があると市町村長(特別区の区長を含む。)が認める者に限る。)につき、授業の終了後又は休業日に児童発達支援センターその他の内閣府令で定める施設に通わせ、生活能力の向上のために必要な支援、社会との交流の促進その他の便宜を供与することをいう。

2. 役割

- 学齢期の障害のあるこどもに対し、個々の障害の状態や発達の状況・障害の特性等に応じた発達上のニーズに合わせて本人への発達支援(本人支援)を行うほか、こどもの発達の基盤となる家族への支援(家族支援)を行うことが求められる。
また、全てのこどもが共に成長できるよう、学校、特別支援学校、専修学校等(以下「学校等」という。)と連携を図りながら、小学生の年齢においては放課後児童クラブ等との併行利用や移行に向けた支援を行うとともに、学齢期全般において地域の一員としての役割の発揮や地域の社会活動への参加・交流を行うことができるよう支援(移行支援)を行うことも求められる。
さらに、こどもや家庭に関わる関係機関と連携を図りながら、こどもや家族を包括的に支援(地域支援・地域連携)していくことも求められる。

3. 放課後等デイサービスの原則

(1) 放課後等デイサービスの目標	<p>一人一人の人間性の成長にしっかりと目を向けながら、こどもが安全・安心で自分らしく過ごせる居場所として、学校や家庭とは異なる時間、空間、人、多様な遊びや体験活動等の機会を提供することにより、こどもが自己肯定感や自己有用感を高め、ウェルビーイングを実現していく力を培うことが重要であることから、以下を目標として支援を提供していくことが必要である。</p>
	<p>○ 生きる力の育成とこどもの育ちの充実</p> <p>一人一人の人間性の成長にしっかりと目を向け、単に知識やスキルを身につけるのではなく、生きる力や自立心を育てていくとともに、将来のこどもの発達・成長の姿を見通しながら、日常生活や社会生活を円滑に営めるよう、障害の状態や発達の状況・障害の特性等に応じ、様々な遊びや学び、多様な体験活動の機会を提供することを通じて、こどもの自尊心や主体性を育てつつ、発達上のニーズに合わせて、こどもの育ちの従事を図ること。</p>
	<p>○ 家族への支援を通じたこどもの暮らしや育ちの安定</p> <p>こどもの家族の意向を受け止め、こどもと家族の安定した関係に配慮し、きょうだいを含めた家族をトータルに支援していくことを通じて、こどもの暮らしや育ちを支えること。</p>
	<p>○ こどもと地域のつながりの実現</p> <p>こどもや家族の意向を踏まえながら、地域の学校等や放課後児童クラブ、児童館等の教育や子育て支援施策、地域の活動と連携し交流を進めるとともに、放課後児童クラブを併用している場合には、十分な連携を図る等を通じて、こどもと地域のつながりを作っていくこと。</p>
	<p>○ 地域で安心して暮らすことができる基盤づくりの推進</p> <p>こどもの育ちや家庭の生活の支援に関わる地域の関係機関や他の放課後等デイサービス事業所、地域の障害児支援の中核的な役割を担う児童発達支援センター等との連携を通じて、こどものライフステージや家庭の状況に応じて、切れ目のない一貫した支援を提供することにより、こどもと家族が包括的に支えられ、地域で安心して暮らすことができる基盤を作っていくこと。</p>

3. 放課後等デイサービスの原則(続き)

<p>(2) 放課後等デイサービスの^{方法}</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ <u>それぞれの時期のこどもの発達の過程や特性等に応じた発達上のニーズ、適応行動の状況や特に配慮が必要な事項等を丁寧に把握し理解した上で、放課後等デイサービスを利用する全てのこどもをありのままに受け止めて、こどもが自分らしく過ごせる場であるという安全・安心の土台の上で、総合的な支援を提供することを基本</u>としつつ、こどもの発達段階や特性など、<u>個々のニーズに応じて、特定の領域に重点を置いた支援を組み合わせる</u>など、包括的かつ丁寧にオーダーメイドの支援を行っていくことが重要である。 ■ こどもの発達の過程や特性等に応じた発達上のニーズの把握 こどもの発達の過程や特性等に応じた、発達上のニーズの把握に当たっては、本人支援の5領域(「健康・生活」、「運動・感覚」、「認知・行動」、「言語・コミュニケーション」、「人間関係・社会性」)の視点等を踏まえたアセスメントを行うことが必要である。 ■ 総合的な支援 総合的な支援とは、本人支援の5領域の視点等を踏まえたアセスメントを行った上で、生活や遊び等の中で、5領域の視点を網羅した個々のこどもに応じたオーダーメイドの支援が行われるものである。 ■ 特定の領域に重点を置いた支援 また、特定の領域に重点を置いた支援とは、本人支援の5領域の視点等を踏まえたアセスメントを行った上で、5領域の視点を網羅した支援(総合的な支援)を行うことに加え、理学療法士等の有する専門性に基づきアセスメントを行い、5領域のうち、特定(又は複数)の領域に重点を置いた支援が計画的及び個別・集中的に行われるものであり、一対一による個別支援だけでなく、個々のニーズに応じた配慮がされた上で、小集団等で行われる支援も含まれるものである。 ○ こどもは家庭や地域社会における生活を通じて、様々な体験等を積み重ねながら育っていくことが重要である。そのため、「本人支援」に加え、「家族支援」、「移行支援」、「地域支援・地域連携」もあわせて行われることが基本である。
<p>(3) 放課後等デイサービスの^{環境}</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ こども自らが環境に関わり、自発的に活動し、様々な経験を積んでいくことにより、興味関心を広げ、こどもによる選択ができるよう配慮すること。 ○ こどもの活動が豊かに安全・安心に展開されるよう、放課後等デイサービス事業所の設備や環境を整えるとともに、事業所の衛生管理や安全の確保等に努めること。 ○ こどもが生活する空間は、温かで、親しみやすく、くつろげる場となるようにするとともに、障害の特性を踏まえ、時間や空間を本人にわかりやすく構造化することや、不安な気持ちを落ち着かせる環境を整えるなど、個々のニーズに配慮した環境の中で、生き生きと活動できる場となるように配慮すること。 ○ こどもが人と関わる力を育てていくため、こども自らが周囲のこどもや大人と関わっていくことができる環境を整えること。
<p>(4) 放課後等デイサービスの^{社会的責任}</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 権利行使の主体として、こどもの人権に十分配慮することを徹底するとともに、こども一人ひとりの人格や意見を尊重して支援を行うこと。 ○ こどもの家族の意向を受け止め、支援に当たるとともに、家族に対し、支援の内容について適切に説明し、相談や申入れ等に対し適切に対応すること。 ○ 地域社会との交流や連携を図り、地域社会に、事業所等が行う支援の内容等の情報を適切に発信すること。 ○ 支援の内容や役割分担について定期的に点検し、その質の向上を図られるようにするとともに、こどもが安心して支援を受けられるよう、安全管理対策等を講ずること。 ○ 通所するこどもやその家族の個人情報を適切に取り扱うこと。

目的・**内容**・方法

活動の内容はなに？



2. 放課後等デイサービスの内容

①本人支援

実際の支援場面においては、下記の要素を取り入れながら、こどもの支援ニーズや、現在と当面の生活の状況等を踏まえて、**こどもの育ち全体に必要な支援を組み立てていく**必要。また、学齢期には、二次障害やメンタルヘルスの課題を抱える場合もあり、こどもがこれらの課題を乗り越えていくためには、自尊感情や自己効力感を育むことが重要である。

健康・生活	運動・感覚	認知・行動	言語・コミュニケーション	人間関係・社会性
<ul style="list-style-type: none"> ○健康状態の維持・改善 ○生活習慣や生活リズムの形成 ○基本的な生活スキルの獲得 ○生活におけるマネジメントスキルの育成 	<ul style="list-style-type: none"> ○姿勢と運動・動作の基本的技能の向上 ○姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用 ○身体の移動能力の向上 ○保有する感覚の活用 ○感覚の特性への対応 等 	<ul style="list-style-type: none"> ○認知の特性についての理解と対応 ○対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得 ○行動障害への予防及び対応等 	<ul style="list-style-type: none"> ○コミュニケーションの基礎的能力の向上 ○言語の受容と表出 ○コミュニケーション手段の選択と活用 ○状況に応じたコミュニケーション 等 	<ul style="list-style-type: none"> ○情緒の安定 ○他者との関わり（人間関係）の形成 ○遊びを通じた社会性の発達 ○自己の理解と行動の調整 ○仲間づくりと集団への参加

障害特性等に応じた配慮事項	視覚障害、聴覚障害、知的障害、発達障害、精神的な強い不安等、場面緘黙(選択性かん黙)、肢体不自由、病弱・身体虚弱、医療的ケア、重症心身障害、複数の種類の障害、強度行動障害、高次脳機能障害など、それぞれの障害特性や状態等に応じて必要な配慮を行うことが必要。また、思春期のこどもや不登校状態にあるこどもに対しても必要な配慮を行うことが必要。
特に支援を要する家庭のこどもに対する支援に当たっての留意点	こどもの行動や態度、表情など、支援に当たって気に留めておくべき点(例:虐待が疑われるこども、生活困窮が疑われる家庭のこども、外国にルーツのあるこどもに応じた留意点)に加え、日頃から保護者との関係づくりを丁寧に行うことで保護者の孤立を防ぐとともにこどもの変化に気付きやすくしておくこと、さらには専門機関やボランティア・NPO団体などの地域資源についての情報を収集しておくことが重要。

本人支援において、複数組み合わせで行うことが求められる**4つの基本活動を提供する**に当たっては、こどもの意見を聴きながら自己選択や自己決定を促すとともに、こども同士の関わりの中でこどもが主体性を発揮しながら参加できるよう、支援していくことが求められる。

4つの基本活動	日常生活の充実と自立支援のための活動	こどもの発達に応じて必要となる日常生活における基本的な動作や自立を支援するための活動を行う。こどもが意欲的に関わられるような遊びを通して、成功体験の積み増しを促し、自己肯定感を育めるようにする。将来の自立や地域生活を見据えた活動を行う場合には、こどもが通う学校で行われている教育活動を踏まえ、その方針や役割分担等を共有できるよう、学校と連携を図りながら支援を行う。
	多様な遊びや体験活動	遊び自体の中にこどもの発達を促す重要な要素が含まれていることから、挑戦や失敗を含め、屋内外を問わず、自由な遊びを行う。また、体験したことや、興味を持ったことに取り組めることは、新たにやってみたいと感じる機会につながるから、多様な体験の機会を提供していく。こどもが望む遊びや体験、余暇等を自分で選択しながら取り組むことができるよう、多彩な活動プログラムを用意する。その際には、個別性に配慮された環境やこどもがリラックスできる環境の中で行うことができるよう工夫することが重要である。
	地域交流の活動	障害があるがゆえにこどもの社会生活や経験の範囲が制限されてしまわないように、地域の中にこどもの居場所をつくりながらこどもの社会経験の幅を広げていく。他の社会福祉事業や地域において放課後等に行われている多様な学習・体験・交流活動など地域資源も活かして、遊びや体験の機会を創出していくとともに、ボランティアの受入れ等により、積極的に地域との交流を図っていく。こうした取組は、こどもにとって、地域そのものが安全・安心な居場所となることにもつながる。
	こどもが主体的に参画できる活動	こどもとともに活動を企画したり過ごし方のルールをつくらしたりするなど、こどもが主体的に参画できる機会を設け、こどもが意見を表明しやすい環境づくりを行いながら、こどもとともに活動を組み立てていく取組を行っていく。その際には、こどもの意思を受け止めつつ、一人一人の個性に配慮するとともに、こどもに寄り添いながら進めていくことが重要である。こうした取組は、こどもにとって自分自身が権利の主体であることを実感するとともに、こどもの権利を守ることにもつながる。

【そもそも「活動」とは?】

【体験活動とは…】

「見る」 . . . 視覚
「聞く」 . . . 聴覚
「味わう」 . . . 味覚
「嗅ぐ」 . . . 嗅覚
「触れる」 . . . 触覚



これらの感覚を働かせて、あるいは組み合わせ、
身体体全体で外界の事物や事象に働きかけ関わっていく活動

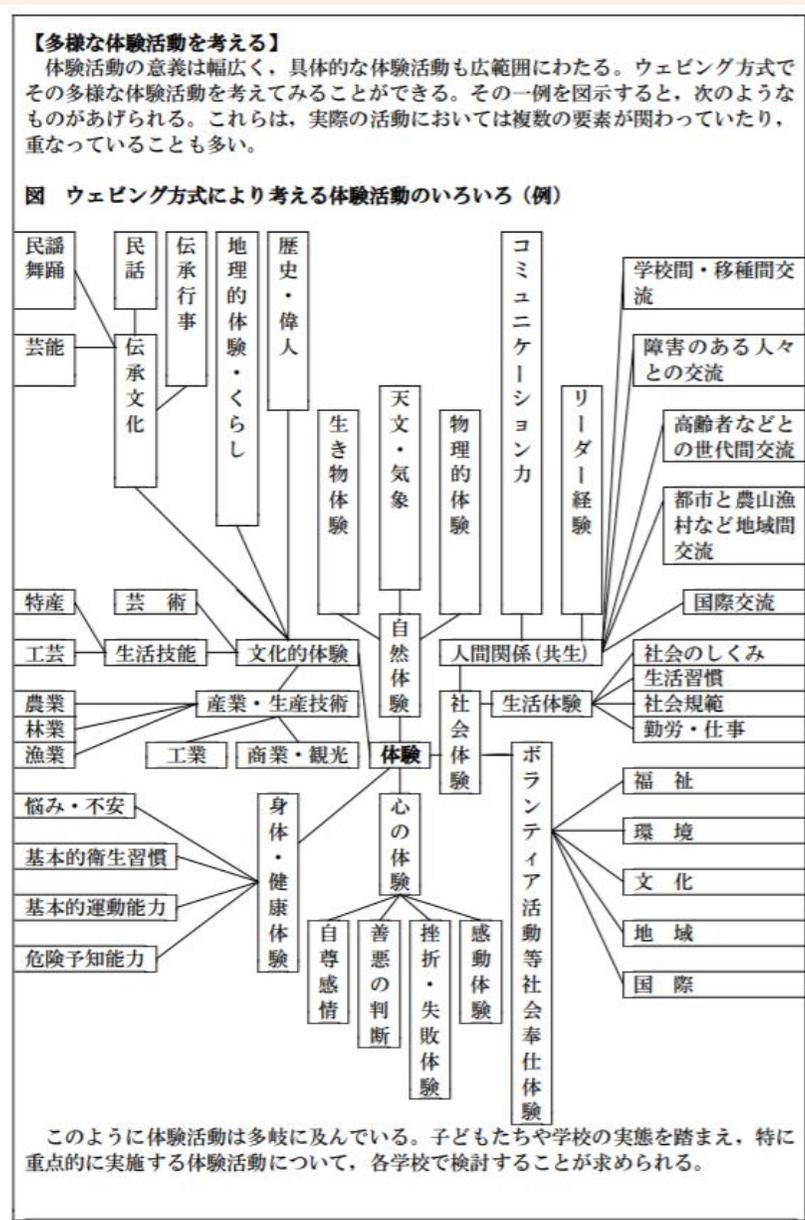
【そもそも「活動」とは?】

【体験活動の意義】

- 1 現実の世界や生活などへの興味、関心、意欲の向上
- 2 問題発見や問題解決能力の育成
- 3 思考や理解の基盤づくり
- 4 教科等の「知」の総合化と実践化
- 5 自己との出会いと成就感や自尊感情の獲得
- 6 社会性や共に生きる力の育成
- 7 豊かな人間性や価値観の形成
- 8 基礎的な体力や心身の健康の保持増進

【そもそも「活動」とは？】

【体験活動事例集による類型】



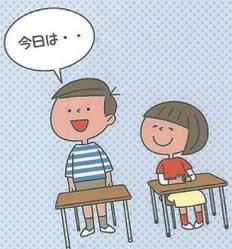
- ① ボランティア活動など
社会奉仕に関わる体験活動
- ② 自然に関わる体験活動
- ③ 勤労生産に関わる体験活動
- ④ 職場や就業に関わる体験活動
- ⑤ 文化や芸術に関わる体験活動
- ⑥ 交流に関わる体験活動
- ⑦ その他の体験活動

文部科学省HP：青少年の健全育成より

http://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/houshi/detail/1368011.htm

障害のある子を支える 放課後等デイサービス 実践事例集

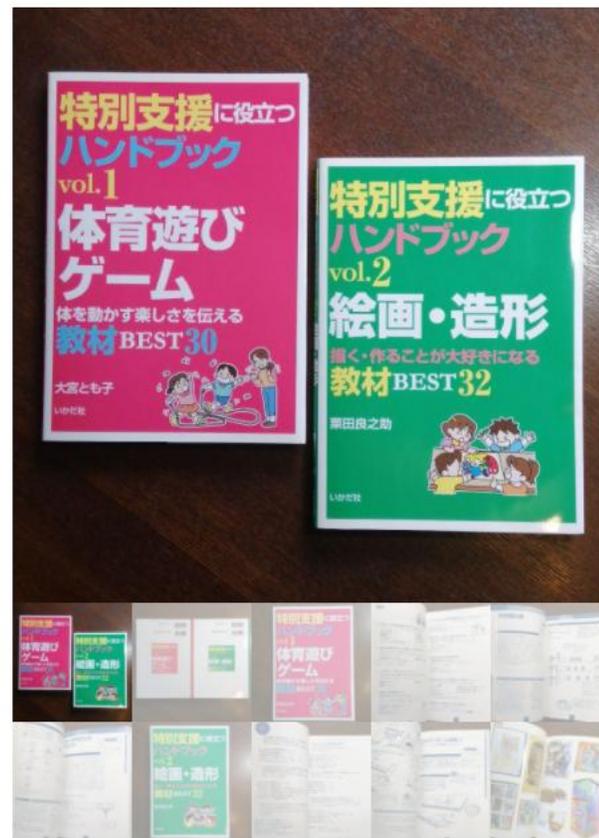
一般社団法人全国児童発達支援協議会 ● 編集



中央法規

【2冊セット】特別支援に役立つハンドブック vol.1 & vol.2

『【2冊セット】特別支援に役立つハンドブック vol.1 & vol.2』は、224回の取引実績を持つ赤ちゃんさんから出品されました。人文/社会/本・音楽・ゲームの商品で、未定から1~2日で発送されます。



出品者	赤ちゃん ☹️ 223 ☹️ 1
カテゴリ	本・音楽・ゲーム >本 >人文/社会
ブランド	
商品の状態	目立った傷や汚れなし
配送料の負担	送料込み(出品者負担)
配送の方法	らくらくメルカリ便
配送元地域	未定
発送日の目安	1~2日で発送



特別支援学校教育要領・学習指導要領解説

自立活動編 (幼稚部・小学部・中学部)

平成 30 年 3 月

 文部科学省

3

学級担任のアイデア・ヒント集

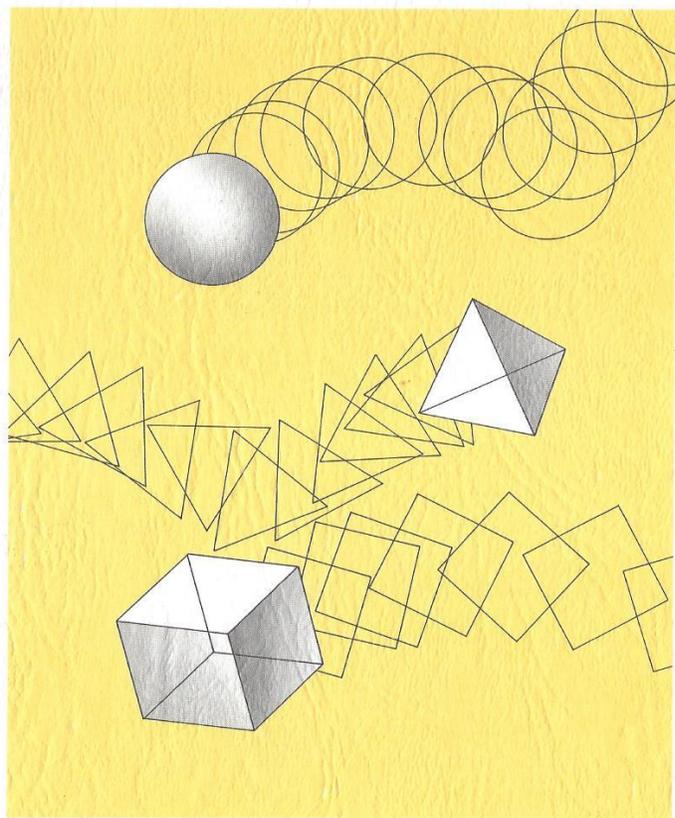
子どもの豊かな活動・体験を活かす 生活科のアイデア・ヒント

中嶋公喜/編著



明治図書

遊びの指導の手引



平成 5 年
文 部 省

日常生活の指導の手引

(改訂版)



平成 6 年
文 部 省

内容（5領域）

（ア）健康・生活

- （a）健康状態の把握
- （b）健康の増進
- （c）リハビリテーションの実施
- （d）基本的な生活スキルの獲得
- （e）構造化等により生活環境を整える

（イ）運動・感覚

- （a）姿勢と運動・動作の基本的技能の向上
- （b）姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用
- （c）身体の移動能力の向上
- （d）保有する感覚の活用
- （e）感覚の補助及び代行手段の活用
- （f）感覚の特性（感覚の過敏や鈍麻）への対応

（ウ）認知・行動

- （a）視覚、聴覚、触覚等の感覚や認知の活用
- （b）知覚から行動への認知過程の発達
- （c）認知や行動の手掛かりとなる概念の形成
- （d）数量、大小、色等の習得
- （e）認知の偏りへの対応
- （f）行動障害への予防及び対応

（エ）言語・コミュニケーション

- （a）言語の形成と活用
- （b）受容言語と表出言語の支援
- （c）人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得
- （d）指差し、身振り、サイン等の活用
- （e）読み書き能力の向上のための支援
- （f）コミュニケーション機器の活用
- （g）手話、点字、音声、文字等のコミュニケーション手段の活用

（オ）人間関係・社会性

- （a）アタッチメント（愛着行動）の形成
- （b）模倣行動の支援
- （c）感覚運動遊びから象徴遊びへの支援
- （d）一人遊びから協同遊びへの支援
- （e）自己の理解とコントロールのための支援
- （f）集団への参加への支援



児童発達支援ガイドラインに示された「本人支援」

ねらい

- ・ 身辺自立
- ・ 生活の基本動作
- ・ 自身の心と体への気づき
- ・ 食育
- ・ 物の管理や整理整頓力
- ・ スケジュール遵守
- ・ 基本的な生活リズムの獲得
- ・ 体調管理、健康状態の維持
- ・ 心や体の尊重
- ・ 習慣づくり
- ・ 清潔保持、手洗い習慣
- ・ 適切な水分補給
- ・ 来所時、退所時の準備
- ・ マナー、ルールの遵守
- ・ 買い物

方法

- ・ 絵本、動画、手遊び、歌による促し
- ・ 定期的な聞き取り
- ・ SST
- ・ 食事摂取 間食提供と支援
- ・ 健康チェック（疲れの温度計）
- ・ 掲示物
- ・ 検温動作
- ・ 構造化による生活環境の整備
- ・ 声掛け
- ・ 口腔ケア支援
- ・ 日常動作の支援
- ・ 外出支援
- ・ 休息支援

ねらい

- ・筋力強化
- ・身体感覚、ボディイメージの向上
- ・姿勢保持
- ・動作の向上
- ・視覚、触覚、固有受容感覚、前庭感覚の向上
- ・粗大運動や巧緻性能力の向上
- ・バランス力、体幹力、目と手の協調
- ・感覚統合
- ・勝ち負け、協力感覚
- ・危険予知
- ・力の加減、コントロール
- ・忍耐力

方法

- ・レクリエーション参加
- ・外遊び
- ・ダンス、アイソレーション
- ・サーキットトレーニング
- ・リトミック、音楽療法
- ・体幹遊び、パルクール
- ・トランポリン、マット運動、鉄棒
- ・サッカー、ボール遊び、水遊び
- ・手指動作（箸、鉛筆、はさみなど）
- ・ストレッチ、体操
- ・ビジョントレーニング
- ・セルフマッサージ
- ・SART（主導型リラクゼーション療法）
- ・正しい座位の環境調整
- ・陶芸活動

ねらい

- ・ 知覚、判断、想像、推論、決定
記憶、言語理解
- ・ デザイン力、創造力
- ・ 空間認知力
- ・ 認知のゆがみ修正
- ・ 計画力
- ・ 自己制御力
- ・ 認知形成
- ・ ルール理解
- ・ 時間概念形成
- ・ 数概念形成
- ・ 自らの強み、苦手理解
- ・ 問題解決能力
- ・ 自発的行動の促進

方法

- ・ スケジュール支援
- ・ タイマー、カレンダー
- ・ 工程表提示
- ・ 文法課題
- ・ 認知課題
- ・ 創作活動
- ・ SST
- ・ 心理劇
- ・ 音楽活動
- ・ 自立課題
- ・ 遊び
- ・ ブロック遊び
- ・ リフレーミング訓練
- ・ 防災訓練、避難訓練
- ・ 季節行事体験

ねらい

- ・ 相手理解、他者理解
- ・ 自己主張、自己表現、自己理解
- ・ 言語理解、共感
- ・ 相互理解、相互交流
- ・ 語彙習得
- ・ コミュニケーション能力
- ・ コミュニケーション手段の選択力
- ・ 傾聴力
- ・ 読解力
- ・ 書く力、表現力、言語表出
- ・ 会話力
- ・ 自他の感情の整理
- ・ 発声、発音の能力
- ・ 意思伝達、意思疎通

方法

- ・ 発表(会)、司会、始まり終わりの会
- ・ 模範提示
- ・ ダンス表現
- ・ 読み聞かせ
- ・ ごっこ遊び
- ・ 活動中の声援
- ・ グループディスカッション
- ・ 絵カード等視覚刺激を使った支援
- ・ プレイセラピー
- ・ 自立課題
- ・ 感想表現（口頭表現、文字表現）
- ・ STによる言語構音訓練、
- ・ 活動の振り返り
- ・ 早口言葉、音読、歌
- ・ 非言語コミュニケーションの活用訓練
- ・ いいところ探し
- ・ 非言語でのスポーツ活動

ねらい

- ・ 対人行動
- ・ 集団行動、集団参加
- ・ 社会的要求
- ・ 社会的関心
- ・ 思いやり、譲り合い、気遣い
- ・ 道徳性
- ・ 人への信頼感、信頼関係
- ・ ルール理解、規律性
- ・ 協調性、協力
- ・ 他者との距離感
- ・ ソーシャルスキル
- ・ リーダーシップ、役割遂行
- ・ 自己理解、他者理解
- ・ 仲間づくり
- ・ 行動の調整力

方法

- ・ 小集団SST
- ・ 個別心理面接
- ・ 地域行事、地域イベント参加
- ・ 職業体験
- ・ 地域の人との交流
- ・ SST、ロールプレイング
- ・ ドリル、プリント学習
- ・ 集団交流活動、異学年交流
- ・ 野外交流活動、レクリエーション
- ・ ごっこ遊び
- ・ 社会見学、社会体験、外出活動
- ・ チーム競技、協力ゲーム
- ・ 遊びの支援
- ・ 余暇活動支援
- ・ トラブル時問題解決支援
- ・ 性教育、障がい受容
- ・ コグニティブトレーニング

目的・内容・方法

どのように展開すれば？



① モデリング

② 強化

③ 行動形成

④ 反復学習

⑤ 般化

① モデリング

他者を観察し模倣するだけで行動を学習する（外的強化がなくても）

【3つの効果】

1 観察学習による行動獲得

- ・ モデルの行動を見て新しい行動を学習する

2 制止・脱制止

- ・ すでに学習していた行動を行わなくなる
- ・ しないようにしていた行動を行うようになる

3 反応促進

- ・ 学習していた行動がより頻繁に行われるようになる



療育活動の成果を高める原理

① モデリング

② 強化

③ 行動形成

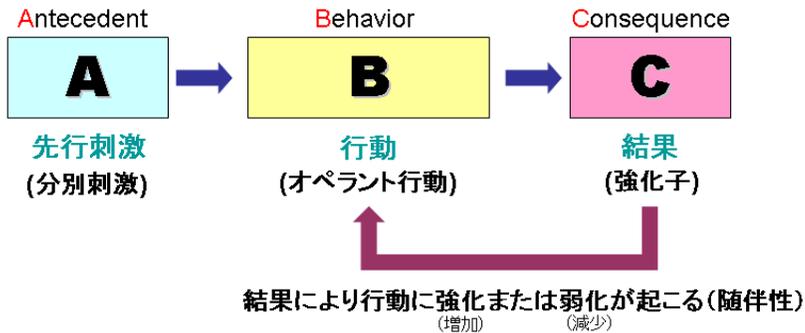
④ 反復学習

⑤ 般化

② 強化

その行動をまた実行する可能性を高めるため、
行動に対して、好ましい結果を与えること（強化子・好子）

三項随伴性(ABC分析)



② 強化

【好子・強化子の種類】

- ・ 生得性好子（無条件）・・・生命維持に関する基本的欲求を充足
食べ物、飲み物、におい、味、睡眠、性的刺激 等
- ・ 習得性好子（条件性）・・・ごほうびであることを後の学習で身に付けた
タブレットでゲーム、お出かけ、買物、言語的賞賛 等
- ・ 般性好子・・・この強化子が別の強化子を得るために使用される
お金、ごほうびシール等
- ・ 社会的好子・・・人とのかわりが強化子として機能した場合

① モデリング

② 強化

③ 行動形成

④ 反復学習

⑤ 般化

③ 行動形成 シェーピング

- ・ 望まれる目標に向けて連続的にステップを踏んで強化を行うこと
- ・ 目標行動により似ている行動を次々と強化していく手続き



A : ひとつのスキル(能力)は、どのようなスキル(能力)から成り立っているのか？

B : ひとつのスキル(能力)は、どのようなスキル(能力)が身につくようになるのか？

療育活動の成果を高める原理

① モデリング

② 強化

③ 行動形成

④ 反復学習

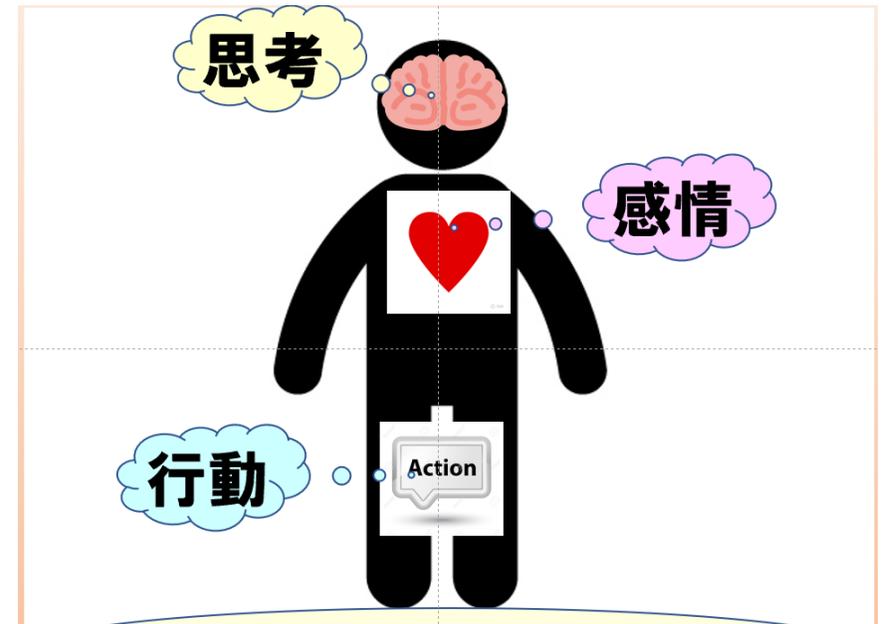
⑤ 般化

④ 過剰学習（反復学習）

あるスキル(能力)を自動的にできるまで繰り返して練習すること
(繰り返し練習する・意識してやることを繰り返かえそう)

ロールプレイの繰り返し **(体験する)**
(実際の場面や状況を想定して、
役割を演じることで実践的なスキルを
学ぶ手法)

- 手順
- ・ 個人ごとの役割を決める
 - ・ 目的や場面を設定する
 - ・ フィードバックをする



① モデリング

② 強化

③ 行動形成

④ 反復学習

⑤ 般化

⑤ 般化

ある場面で獲得されたスキル(能力)をそれ以外の場面でも使えるようになること
(実際の場面でできる・応用する)

習慣とは

十分に学習した行動や自動化された行動系列のうち、比較的特定の状況で生じ、時間がたつことで運動性の反射となり、動機付けや認知の影響を受けなくなり、意識的な意図をほとんど、あるいはまったく伴わずに実行されるもの。

習慣化の特徴

- ・ その行動をするのが当たり前を感じる。
その行動をしない方が気持ち悪いと、違和感を覚えることもある。
- ・ 意志の力が不必要。無意識のうちに行っていることもある。
- ・ がんばらずにずっと継続できる。
むしろやめようと思っても、やめられない。

モチベーションって

TEMONA

モチベーションと動機づけ

動機づけの種類



社会的動機づけ

外発、内発、達成を包含する

外発的動機づけ

処遇、待遇、金銭、義務

内発的動機づけ

好奇心、感情性、挑戦性、認知性

達成的動機づけ

より目標達成をしようとする

生理的動機づけ

食べたい、寝たい、排泄したい



社会的動機付け

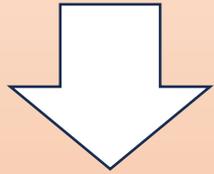
- 遊戯動機**…楽しさや面白さを求める。緊張をやわらげ、冗談やゲームを好む。
- 理解動機**…理論的な考えを求めたり、物事の仕組みを理解しようとする。
- 変化動機**…新しいことを好み、流行に敏感で変革を求める。
- 秩序動機**…安定、秩序、伝統、などを大切にする。整理、整頓、正確さを目指す。
- 達成動機**…努力して高い目標をやり遂げる。才能を生かし自尊心を高める。
- 親和動機**…好きな人の近くにいたい、助け合いたいと思う動機。友情を重視する。
- 屈辱動機**…自分を責め、非難や罰を受け入れたいと思う。敗北を認める。
- 攻撃動機**…言葉や力を使って相手を屈服させたい、反対を克服したいと思う。
- 自律動機**…束縛、強制、横暴な権威、因習を嫌い、自由と独立を求める。
- 支配動機**…人の上に立ちたい、説得や命令によって人に影響を与えたいと思う。
- 服従動機**…優れた人の命令に従い、その人の言う通りにしたいと望む。
- 顕示動機**…目立ちたい、人を驚かせたり、楽しませたりして印象づけたいと思う。
- 援助動機**…弱い者、困っている者などを助け、慰め、励ましたいと思う。
- 依存動機**…甘えたい、助けてもらいたい、愛されたい、同情されたいと思う。
- 異性愛動機**…異性を求め、恋愛関係や性的関係に関心を向ける。
- 屈辱回避動機**…失敗して軽蔑されることを避けたいと思う。自己防衛的な思い。



支援員「いまから
〇〇やるよ～」



子ども「え～、やる
の～・・・」



子ども「ねえ、〇〇
させてよ～」



支援員「え～、どう
しようかなあ～」
(^-^;



「面白い」とは？

脳のどこ？を 反応させようと するのか？

ポイント ①

療育活動内容を企画する



【療育活動内容を企画する】

【活動計画を立てる】

活動と指導をコラボする絶好の機会！

事前

- ・ 活動当日を迎えるまでの準備（制作や下調べなど）
- ・ できるようになっておいてほしいことのトレーニング
- ・ 場所の確保や準備物の借用、購入予算などの事前準備

事中

- ・ 当日の活動の主な流れ
- ・ 役割分担
- ・ 準備するもの

事後

- ・ 活動後の振り返りをする場の設定
- ・ 活動の成果を発表する場の設定
- ・ 次の活動につながる、発展する方向性をさぐる

【療育活動内容を企画する】

【支援の具体的留意点を考える】

- Pont 1** 起こり得ることを想定しておき、
ことが起きたとき、即座に対応する
- Pont 2** 子どもたちの自主的な行いを妨げない
- Pont 3** 準備してきたこと、練習してきたことが
成功するようお膳立てをしておく
- Pont 4** スタッフの役割分担を明確にしておく

【療育活動内容を企画する】

活動企画書づくりのポイント

- なぜ、その企画（=療育活動）をするのですか？
 - 目的の明確化
 - ・子どもたちの実態
 - ・目指す姿
- どんな活動を計画するのですか？
 - 活動のもつ意味
 - ・体験的活動
 - ・ソーシャルスキルトレーニング
- 活動をどのように展開するのですか？
 - 子どもたちの動機付け
 - ・内発的動機付け
 - ・外発的動機付け
 - ・社会的動機付け
- どのように計画・準備するのですか？
 - 実施までの段取り等
 - ・企画の承認（いつまで？）
 - ・借用や購入予算、制作等の計画
 - 過去の資料の参考
 - ・活動後の資料整理の工夫と徹底
- どのように支援するのですか？
 - 一人ひとりの子どものアセスメントと個別支援計画から
- 6 シミュレーションをやってみましょう！

活動計画書

【活動名】

【ねらい】

【準備物】借用・購入、予算等

【活動の展開】

	活動及び指導の内容・時間配分等	支援の留意点
事前		
事中		
事後		

【療育活動内容を企画する】

構成的グループ・エンカウンター 活動例（計画案）

資料編②

(1) 療育活動名 フルーツバスケット

(2) ねらい

- ① 遊びのルールを理解し、集団遊びであるフルーツバスケットを楽しむことができる
- ② 「おに」へのインタビューを通して、他児の話に注目することができる

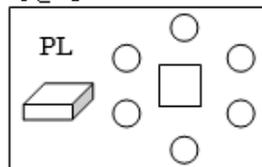
(3) 準備（もの・場）

梨・林檎・柿各1個 + 一口サイズ爪楊枝付き（人数分）

果物首かけ絵カード（3種類×5枚くらい）

果物場絵カード（3種類+フルーツ盛合×5枚くらい）

椅子（人数分） 爪楊枝ごみ入れ



(4) 活動の流れ

時間	活動	活動上の留意点	支援上の留意点
	1 場所を自由に選び、椅子に座って待つ		
	2 秋の果物を見て遊びへの興味をもつ	・果物を見せながら、声かけする 「今日はこれを使って遊びます。遊びたい人！」	・指示への注目ができるように声掛けする ・説明に注目するように声掛けする ※場合によってはモデリングに参加させる
	3 チーム決めをする	・一人ひとり順番に「好きな」果物を選ばせ、絵カードを首にかける	
	4 ルール説明を聞く	・モデリングをしながら説明する 【ルール】 ① PLから引いたカードを見せながら果物の名前を言う ② 移動する際、雑巾を一旦踏む ③ 座ることができたらカードにシールを貼ってもらう ④ 「おに」はPL、もしくは他児から質問やインタビューを受ける ・一度練習をやる	・ルールの理解が難しい子に、スタッフが直接支援する ※この際、教えるのではなく考えさせることを原則とし、不十分な部分

5 ゲームをする

- ・「おに」がカードを引く＆言う→すわる→シール→「おに」インタビュー→「おに」がカードを…のサイクルについて、子どもたちの楽しみ具合、ルールの理解具合をみながら繰り返す
※飽きているようだったら「なんでもバスケット」（〇〇の人！）へバージョンアップする

- ・のみフォローする
- ・話に注目しているかを観察し、直接指導する
※場合によってはインタビューにさせる

6 ゲームを振り返る

- ・獲得したシールを数え、勝敗を確認する
- ・多い子から順番に、インタビューして感想を得ながら果物を食べる
【感想インタビュー】
Q：楽しかったか？
Q：どうして楽しかったのか？
・まとめとして、「おに」になった他児が話していたインタビュー内容をクイズ形式で出題し、よくできていた子を賞賛する

- ・数確認が難しそうなお子には直接支援する（間違いないように）
- ・まとめとして「ルールを守ると楽しい」を感じ取らせたい

ポイント ②

療育活動内容を系統化する(並べる)



療育活動を系統化する際の軸

活動のねらい

- 発達的特質
- 個人的特質

活動の形態

- 集団活動
- 個別活動
 - ・ 身辺自立スキル
 - ・ ソーシャルスキル

系統の期間

- 年齢（発達）
- 学校種別
- 年・月・週

その他

- 将来の進路

放課後等デイサービスガイドライン(令和6年7月)(詳細版④)

第3章 放課後等デイサービスの提供すべき支援の具体的内容

1. 放課後等デイサービスの提供に当たっての留意事項

こどもの育ちの連続性を意識した支援が求められていることから、放課後児童クラブ等との連携及び併行利用や移行に向けた支援を行うために、放課後児童クラブ運営指針の「育成支援(放課後児童クラブにおけるこどもの健全な育成と遊び及び生活の支援)の内容」を理解するとともに、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領及び特別支援学校高等部学習指導要領についても理解し、支援に当たることが重要である。

放課後児童クラブ運営指針も参考に、目安として**4つの区分に分けて、留意事項を示す**。なお、この区分は、同年齢のこどもの均一的な発達の基準ではなく、個人差や障害の特性等によりその発達過程は様々であることを十分に理解した上で、あくまでも一人一人のこどもの発達過程を理解する目安として捉えるべきものである。

(1)	おおむね6歳～8歳 (小学校低学年)	<ul style="list-style-type: none">○ こどもは学校生活の中で、読み書きや計算の基本的技能を習得し、日常生活に必要な概念を学習し、係や当番等の社会的役割を担う中で、自らの成長を自覚していく。一方で、同時にまだ解決できない課題にも直面し、他者と自己とを比較し、葛藤も経験する。○ 遊び自体の楽しさの一致によって群れ集う集団構成が変化し、そこから仲間関係や友達関係に発展することがある。ただし、遊びへの参加がその時の気分に大きく影響されるなど、幼児的な発達の特徴も残している。○ ものや人に対する興味が広がり、遊びの種類も多様になっていき、好奇心や興味が先に立って行動することが多い。○ 大人に見守られることで、努力し、課題を達成し、自信を深めていくことができる。その後の時期と比べると、大人の評価に依存した時期である。
(2)	おおむね9歳～10歳 (小学校中学年)	<ul style="list-style-type: none">○ 論理的な思考や抽象的な言語を用いた思考が始まる。道徳的な判断も、結果だけに注目するのではなく、動機を考慮し始める。また、お金の役割等の社会の仕組みについても理解し始める。○ 遊びに必要な身体的技能がより高まる。○ 同年代の集団や仲間を好み、大人に頼らずに活動しようとする。他者の視線や評価に一層敏感になる。○ 言語や思考、人格等のこどもの発達諸領域における質的变化として表れる「9、10歳の節」と呼ばれる大きな変化を伴っており、特有の内面的な葛藤がもたらされる。この時期に自己の多様な可能性を確信することは、発達上重要なことである。
(3)	おおむね11歳～12歳 (小学校高学年)	<ul style="list-style-type: none">○ 学校内外の生活を通じて、様々な知識が広がっていく。また、自らの得意不得意を知るようになる。○ 日常生活に必要な様々な概念を理解し、ある程度、計画性のある生活を営めるようになる。○ 大人から一層自立的になり、少人数の仲間です「秘密の世界」を共有する。友情が芽生え、個人的な関係を大切にできるようになる。○ 身体面において第2次性徴が見られ、思春期・青年期の発達の特徴が芽生える。しかし、性的発達には個人差が大きく、身体的発育に心理的発達が伴わない場合もある。○ 個々のこどもの性的な発達段階や性への興味・関心に応じ、心や身体の発育や発達に関して正しく理解することができるよう、性に関して学ぶ機会を多く作ることが重要である。
(4)	おおむね13歳以降 (思春期)	<ul style="list-style-type: none">○ 思春期は、こどもから大人へと心身ともに変化していく大切な時期であり、第二性徴などの身体的変化や精神的変化に戸惑いを感じる時期である。こうした戸惑いと親からの自立を目指した一連の動きは、反抗的あるいは攻撃的な態度として表れることも多く、家族を含め周囲の大人の対応によっては情緒的・精神的に不安定となる危険性がある。○ この時期、共通の立場にある仲間とお互いに共感し心を通じ合わせることで、危機を乗り越えていくことも可能となる。○ 一方で、同じ年齢や同性の仲間との間に生じるストレスや心理的ショックなどが「劣等感」となって定着してしまうこともある。○ 思春期前に培われた自己有能感を基盤として、大人とだけではなく仲間との関係性も重視し、進学や就労など次のステージに向かう力が生まれるようにサポートすることが求められる。○ 個々のこどもの性的な発達段階や性への興味・関心に応じ、心や身体の発育や発達に関する正しい理解をもとに適切な行動をとることができるよう、性に関して学ぶ機会を多く作ることが重要である。

【目指すこと】

思考 : 自己否定 → 自己肯定
感情 : 不安定 → 安定
行動 : (うまく) できない → (よく) できる

① 【系 統 型】

量 : 少 → 多い
難易 : 易 → 難
集団 : 個 → 集団
つくり : 単純 → 複雑
視点 : ソロ → マルチ
自立 : 手伝ってもらって → ひとりで

② 【問題解決型】

イベント・活動そのものと付随する療育活動

体験活動の「それダメ×」「それマル○」

「それダメ×」 活動のみのやりっぱなし！

「それマル○」

【箱入り娘お嬢型】

失敗体験をしないよう、
体験が成功するよう
事前のお膳立てを徹底する

【野生児リベンジ型】

まずはどっぷり体験したあと、
リベンジの機会を設定し、
最後には体験が成功するよう
しっかり導いていく

療育活動の系統化

【② 問題解決型】

「火起こししてカレーを作ろう」 【やってみよう型】

事前

- ・ 火の起こし方を練習する
- ・ 危険認識を学習する
- ・ 一定時間、しっかり説明を聞く練習をする

事中

- ・ カレーの作り方を調べる
- ・ 必要な材料を買い物に行く
- ・ 火起こし体験を経験する
- ・ みんなと協力してカレーを作る

事後

- ・ 指導してくれたおじさんにお礼の手紙を書く
- ・ おうちの人と一緒にカレー作りをする

「本格工作にチャレンジしよう」 【室内体験型】

事前

- ・ 100円均一の工作セットで貯金箱を作る
- ・ 途中であきらめずに最後まで作り上げる
- ・ 自分が作った作品を大切に扱う

事中

- ・ 前年度の優秀作品と賞について説明を聞く
- ・ どんなものをどんな材料で作るか計画を立てる
- ・ 必要な材料を買い物に行く
- ・ マイ貯金箱を制作する

事後

- ・ みんなが作った作品の鑑賞会をする
(相互投票して事業所内表彰をする)
(互いのいいところをほめ合おう)

「地域の祭りに参加しよう」 【地域交流型】

事前

- ・ 町の資料館を見学し、地域の歴史を学習する
- ・ 一定時間、しっかり説明を聞く練習をする
- ・ 地域の祭りの神輿担ぎの様子をVTRで視聴する

事中

- ・ 町の歴史や地域の祭りについて、話を聞く
- ・ プレ神輿担ぎに参加する
- ・ 祭りの衣装を着て神輿担ぎ本番に参加する

事後

- ・ 家族と一緒に町の夜祭に参加する
- ・ (以後継続的に) 地域の清掃活動にボランティア参加する

「鳥獣センターへ行こう」 【目的地見学型】

事前

- ・ 集合の仕方を練習する
- ・ 公共の施設におけるマナーを学習する
- ・ 小グループで行動するためのルールをつくる

事中

- ・ 鳥獣センターにいる動物探しオリエンテーリング
- ・ 好きな乗り物を選んで乗る

事後

- ・ 撮影してきた写真をスライドで振り返る
- ・ 好きな動物の絵を描く

療育活動の系統化

年間の構想・月ごとの構想・週ごとの構想

年間

【春】『自己紹介をしよう』

「自分を知ろう」

【夏】『夏祭りをしよう』

「友だちを知ろう」

【秋】『秋を食べよう』

「友だちと協力しよう」

【冬】『ボランティア訪問しよう』

「成長を振り返ろう」

月

今月のテーマ：「**ともだちのいいところ探し**」

・みつけたらカードに書いて壁に掲示しよう

週

今週の目標：「**おもちゃの片付けがんばり週間**」

・おもちゃ片付け名人の帰りの会発表

療育活動の系統化

ストーリーをつくる

ねらい

時期

4月

3月

～ [] のテーマ・年間行事～

4月～6月
～出会い 自分を知る～

- ・個別相談会
- ・講演会

7月～9月
～友達を知る～

- ・工場見学
- ・ながしそうめん
- ・保護者様と一緒にBBQ

10月～12月
～関係を築く～

- ・ハロウィン
- ・社会見学
- ・クリスマス会
- ・もちつき大会

1月～3月
～新しい出会いに向けて！～

- ・講演会
- ・保護者会
- ・個別相談会

～週間行事～

施設名	月曜日	火曜日	水曜日
-----	-----	-----	-----

2020年 3月 活動予定表

日	活動内容	持ち物	費用/別当	支援目的	S-M
2月	感覚統合 指先エクササイズ		●	指先の運動	74
3火	買い物活動 駄菓子屋ひかり		○	買い物遊び	40
4水	感覚統合 ひかり/すてっぶ:目隠しチャレンジ ねくすと:リミック		●	—	
5木	SST じゃんけんゲーム		●	いろいろな遊び方	63
6金	工作 作って遊ぼう			道具の貸し借りができる	47
7土	SST 運動 ポールでレクリエーション ハドル・スポーツクラブ		○	ルールを守って遊ぶ	31
8日					
9月	SST クイズに挑戦		●	意見を伝えることができる	63
10火	SST ゲームdeおやつ		○	順番を守る	31
11水	感覚統合 ひかり:リミック / ねくすと:体操 すてっぶ:体力測定		●	—	
12木	工作 お部屋を飾ろう		●	道具を正しく使える	41
13金	感覚統合 サイレントゲーム			静かにできる・注視する	20
14土	感覚統合 運動 リズムゲーム ハドル・スポーツクラブ		○	合図に合わせて遊ぶ	61
15日					
16月	工作 4月のカレンダーを作ろう		●	はさみの使い方	48
17火	買い物活動 駄菓子屋ひかり		○	買い物遊び	40
18水	感覚統合 ひかり:体操 / ねくすと:リミック すてっぶ:アイロンビーズ		●	—	
19木	SST チームで遊ぶ		●	協力して楽しむ	78
20金					
21土	感覚統合 運動 音楽遊び ハドル・スポーツクラブ		○	集団遊び	83
22日					
23月	感覚統合 バランスゲーム		●	からだの使い方	41
24火	工作 花飾りを作ろう		○	いろいろなどを考える	39
25水	訓練 避難訓練		● ○	静かに話が聞ける	37
26木	外出活動 体育館で遊ぼう	体育館シューズ	● ○	順番を守る	30
27金	買い物活動 ドーナツを買いに行こう	お財布	×	買い物の計画を立てる	94
28土	外出活動 ひかり:おつかいミッション ねくすと:地域交流会		○	—	
29日					
30月	クッキング おやつクッキング	クッキングセット	● ○	簡単な調理ができる	101
31火	イベント お楽しみ会		○ ○	約束を守って楽しむ	71

クッキングセット
エプロン・三角布・マスク・ハンドタオル

お財布
お財布にお金を入れてくる

ハドル・スポーツクラブ
運動しやすい服装・タオル
・多めのお茶(水)

※ 弁当: ○ 注文または持参
× クッキングのため不要

※ 都合により予定変更する場合があります。
・算数教室及び脳機能バランスの申込はHUG上の備考欄にてお願いします。



療育活動の系統化

ストーリーをつくる

2020年		年間行事		
	四半期目標	創作活動	心理面談裏プロ・イベント	誕生日
4月	自己課題 自己を見つける。自身の ことと向き合う。	●お守りづくり	○心理劇 役を演じるということに なれる	[]
5月		●スクイーズづくり ～握って安心、フワフワス クイーズ～		
6月		●立体アートづくり ～自分の世界を箱に表現～		
7月	自己:集団 集団の中に存在する意 識しながら、自身の役 割的意識を芽生えさせ る。	●夏祭り創作	◆ 夏祭り	
8月				
9月		●創作物語リレー ～物語をつなぐ～		
10月	集団に対する意志 的な行動の芽生え 集団の中に対する自己 ポジションの確立	●陶芸器づくり	◆ハロウィンイベント	
11月		●草木染め体験		
12月		●身だしなみミラーづくり ～お気に入りの服で身だしなみ を整える～	◆クリスマスイベント ～1年の集大成をみせる～	
1月	自己の統合 「〇〇が出来た」「△ △は出来なかった」な どの両面的な感情の受 容。自己の成長を振り返る。	●初筆書き体験 ～私・僕の1年はどうする?～		
2月		●革細工キーホルダー ～誰に贈る?～	◆節分イベント	
3月		●香り袋づくり ～かいで落ち着く～	◆ 卒業式	

2020年		年間行事		
	四半期目標	創作活動	作業学習・イベント	誕生日
4月	<慣れる時期> ・生活リズムを整える ・不安を軽減	□ソルトペインティング (江口) (情緒の安定)	□サーキット □体幹トレーニング	[]
5月		□ボトルドーム(山田) (不安癒す)	□サーキット □体幹トレーニング	
6月		□クレイアートクッキーマ グネット(江口) (創造性・巧緻性)	□サーキット □体幹トレーニング	
7月	<体づくり> ・粗大運動で自己の 体の意識作りと、コ ントロールを回す		□サーキット □体幹トレーニング ■音楽療法 (リトミック)	
8月			□サーキット □体幹トレーニング ■ボールペン 袋詰め 封筒作り(作業学 習)	
9月		□叶①創作活動への挿絵書 き(江口) ストレス軽減、発信	□サーキット □体幹トレーニング (■音楽療法 (リトミック))	
10月	<整える時期> ・実習等が始まり リズムが乱れる予 想、安定できるグッ ズや行事等を通して 変わらない安心を得 る	□空き缶ペイント(松尾) (感覚課題・育成によるリ ズム作り)	□サーキット □体幹トレーニング	
11月		□アドベントカレンダー作 り(安田) (見通しの安 心)	□サーキット □体幹トレーニング	
12月		□門松作り(江口) (1年の締めくくりの意 識を持つことでリズムを作 る)	□サーキット □体幹トレーニング	
1月	<来年度へ向けての 意識作り> ・心構え ・自己成長の振り返り		□サーキット □体幹トレーニング ■ボールペン 袋詰め 封筒作り (作業学習)	
2月		□つるしびな(安田) (季節の意識)	□サーキット □体幹トレーニング ■節分イベント「豆まき」(山 田)	
3月		□アルバム作り(坂口) (自分の成長を確認する)	□サーキット □体幹トレーニング □お別れ会 3月29日	